

1. 評価結果概要表

平成 21 年 4 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171700271		
法人名	せたな町		
事業所名	グループホーム あさなぎ		
所在地	久遠郡せたな町瀬棚区本町792-2 (電話) 0137-87-2510		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (平成21年2月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	単独型 木造	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費(月) 5,000円		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1 月 1 日 現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	0 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せたな町立国保医科診療所 瀬棚歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

せたな町北桜山区より229号線を走ると瀬棚区に入る。そびえ立つ大きな3枚羽根の風力発電機が、風の道日本海沿いに連立しており、ここにグループホーム「あさなぎ」がある。平成20年に改良された理念に基づき、運営者、管理者を始めとし、全職員は地域密着型サービスの意義を理解し、家庭的な環境と地域住民との関係性を重視したケアサービスに取り組んでいる。すべて「利用者の利益の為に」、これをモットーに、日々研鑽に励んでいる。又、運営推進会議の開設により地域との交流はより深まり、利用者と職員のコミュニケーションも良好で、事業所の一層の前進に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題については、家族、医療関係者と話し合いにより改善されているが、同業者との交流については、相互研修会を予定している。重度化、終末期については、事業所、医療関係者、家族、三者の更なる努力を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各自で評価した自己評価は、全職員で取り組んでいるが、全職員が意義を理解しているとは限らず、今回改めて話し合いの場を設け、具体的な改善に取り組んでいるが、管理者は評価のねらいや活用方法を全職員が理解するように努め、質の確保・向上に繋げる取り組みが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の課題である運営推進会議が1月に開催され、外部より6名、事業所より2名の参加者でスタートし、今後は定期的に3ヶ月に1度を計画している。会議では、事業所の年間行事等を話し合い、包括支援センターと連携し、広域的に事業所の理解と支援に繋げ、サービス向上に活かしていく意向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	現在、苦情等はないが、3ヶ月に1回、利用者の健康状態、日常生活等、写真、「あさなぎ便り」と共に発信している。運営推進会議や家族会の交流会などで意見を伺う機会を設け、要望等はすぐミーティングで話し合い、改善に取り組み、運営に反映させている。特に気付きの点があればと声かけし、自由に話が出来る雰囲気づくりを図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会後は、町内会行事に参加する機会も多くなり、そのことがきっかけとなり、地域の方々の事業所訪問も多くなり、2月3日の節分には、地域保育所園児と保育士の訪問を受け、利用者は大喜びであった。又、地域のボランティア行事にも積極的に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、家庭的な環境と地域住民との関係性を重視した理念を、平成20年に新たに標榜している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は新しく作り直された理念の本質を理解し、全職員がミーティング時などで話し合い共有しながら、具体的実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会後は、町内会行事に参加する機会も多くなり、そのことがきっかけとなり、地域の方々の事業所訪問も多くなり、2月3日の節分には、地域保育所園児と保育士の訪問を受け、利用者は大喜びであった。又、地域のボランティア行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自で評価した自己評価は、全職員で再討議され改善点を明確にしているが、外部評価についても、全職員が意義を理解しているとは限らず、今回改めて話し合いの場を設け、具体的な改善に取り組んでいる。	○	管理者は自己・外部評価のねらいや活用方法を全職員が理解するように努め、質の確保・向上に繋げていく取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の課題である運営推進会議が1月に開催され、外部より6名、事業所より2名の参加者でスタートし、今後は定期的に3ヶ月に1度を計画している。会議では、事業所の年間行事等話し合い、包括支援センターと連携し、広域的に事業所の理解と支援に繋げ、サービス向上に活かしていく意向である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営母体はせたな町であり、町の意向を確認しながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には勿論、3ヶ月に1回発行されている「あさなぎ便り」と共に、健康状態、暮らしぶり等近況報告を写真も添えて発信している。又、金銭管理については、家族訪問時に確認頂き承認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の交流会などで意見を伺う機会を設けている。要望等はすぐミーティングで話し合い、改善に取り組み、運営に反映させている。特に、「気付きの点」があればと声かけし、自由に話が出来る雰囲気づくりを図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者への弊害を理解しており、極力抑えるよう努めている。利用者に担当の職員が決まっており、担当者が休日等の場合、副担当がそれに当たっている。現在のところ、このシステム導入により、離職者は無くなっている。共に支え合う関係が生じ家族にも喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には、職員の力量や段階に応じた研修に参加出来るように考慮している。働きながらトレーニングすることを勧め、研修会に参加し勉強することにより、スキルアップに繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流も、全職員が参加するまでに至っていない。隣接する町の同業者との交流を現在予定している。	○	他の事業所の見学や、相互研修等の計画を示しているので、サービスの質の向上や職員育成に役立つ交流を期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望に当たり、本人と家族には事業所を見学して頂き、職員は自宅訪問を重ね馴染みの関係をつくることに努力している。又、本人の安心と納得のいく利用を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす同志として、「教えていただく」という場面を多く作り、利用者の得意分野は、「生活のチエ」として参考にし、日々の生活の中で労わり合い支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、少ない言葉の中や表情・行動から、何を望んでいるのか把握している。常に気遣いをしている事が、本人を知る第一と職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族より、本人の意向などを伺った内容を基に、担当者の意見、職員、保健師、ケアマネージャー、管理者と積極的に意見交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直しの他、担当者は利用者の変化の兆しに注意を払い、管理者、家族、ケアマネージャーと相談の上随時見直しを行なっている。尚、センター方式を一部取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、美容院、法事などの送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医に定期的に診察を受けている。又、受診、通院についても、家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、入居時に家族と話し合っているが、すべての家族の要望は、かかりつけ病院への入院である。現在、かかりつけ医は夜間、祝日は無医師状態にある地域性のため、利用者・家族の意向に沿うターミナルケアに至っていない。	○	2012年には約140万人ともいう高齢者死亡率が予測され、病院の収容は無理になると考えられる。そこで改めてかかりつけ医、家族、事業所が真剣に話し合う機会をつくり、早急な終末期への対応、連携の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりに尊厳を持って接する様に、ミーティング時に職員間で話し合い、利用者の誇りを大切にと、言葉かけに配慮している。尚、記録簿等の管理も徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に、その日の利用者の体調に気を配り、希望に沿って散歩や買物にと本人本位に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は介助を必要とする利用者の横で一緒に食事をしながら、さり気なく介助を行なっている。準備、盛り付け、片付けなども、職員と共に協力し合い行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にあり、利用者一人ひとりの自由な意向に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、家事、食事の支度等の他、ゲーム、読書、散歩と、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとを支援している。楽しみごとはそれぞれ違い、その気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候と本人の体調を考慮しながら、出来るだけ外気浴をと心がけ、事業所に閉じこもらない支援に努めている。特に散歩がてらの買物は利用者に喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害を理解し、日中は施錠していない。自由な暮らしを守る為、出歩く利用者に職員の連携プレーによる見守りが行なわれ、一緒に外出する配慮がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を実施している。避難誘導、器具の使用などの訓練も行なっている。但し、近隣の住民の協力を得るまでに至っていない。	○	地域住民との関係が良好になっている現在、運営推進会議などに提案し、地元町内会長の支援を得て、地域との協力体制が整備され、連携を図ることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取量など細かく記録されている。それぞれの嗜好を記録しており、栄養のバランスにも気づかいながら献立をたてている。町職員である栄養士の指導を受けて実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間、廊下とバリアフリー設計になっており、ゆったりと落ち着く空間になっている。居間には、利用者家族より寄贈された明治後期の作品というお内裏雛の掛軸が、季節を表し、和やかな雰囲気をつくっている。又、二畳程の和の小上がりも落ちついた空間を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの居室にクローゼットが取り付けられ、部屋全体がすっきりとしている。最愛の身内を祀る仏壇、懐かしい写真、筆筒等、自宅で使用されていた品々に囲まれ、心地良く生活出来るよう配慮されている。		

※  は、重点項目。